優秀賞

横浜の思い出より

福井県　福井大学教育学部附属義務教育学校　六年
前田　希織

今年の 5 月、私は初めて家族と横浜に行った。駅に着いたときには夕方だった。地下から地上へ出ると雨が降っていた。カサを一本も持ってこなかったので、なるべく雨に当たらない場所を探しながら、家族全員で目的地へと急いでいた。帰宅時間と重なってしまい、周りには仕事帰りの人が大勢歩いていたので、私たちは一列に並んで歩いた。

父は片手で荷物を持ち、空いた手で地図を持ちながら先頭を進んでいた。その父が、ふと後ろを振り返り、

「こっちで合っているかな。」と、私たちに問いかけた。すると、私たちが答えるより先に、

「どちらへ行かれるのですか。」

と、急に父と私の間を歩いていた見知らぬおばさんが答えたので、父も私たちもおどろいてしまった。赤いふちの眼鏡をかけて、おしゃれなスカートをはいた上品な方だった。

父が目的地を告げると、そのおばさんは自分がさしていたカサをすっと父の上にかざした。そして、目的地の中で一番近い入口に案内してくださった。雨も降っていて、まだ幼い弟もいっしょだったので、とてもありがたかった。

入口の前に着くと、そのおばさんは、

「さようなら、良い一日を。」

と笑顔で、さっと歩いていかれた。普段使ったことのない外国のような言い方に、都会的な印象を受けた。私たちは全員で、

「ありがとうございました。」

と答えた。私は、なんてすてきな人なのだろうと思った。一しゅんで、初めて訪れた横浜という街が好きになった。このうれしかった気持ちをおばさんに伝えたかったし、もっといろいろとお話もしてみたかった。

初対面かどうかなど関係なく、行動一つで、こんなに人を幸せな気持ちにできるのだということを知った。しかも、おばさんは考えて行動しているのではなく、自然にできているに違いない、と感じた。

いざ、知らない人から声をかけられたとき、とっさに笑顔で答えられるだろうか。私は初対面の人と話すと、とても緊張してしまうタイプなので、そういうことが苦手な方だった。

この性格を、少しずつでも克服（こくふく）していきたいと思った。私がおばさんにしてもらったように、意識せず自然に人を喜ばすことができるような人になりたい。

来年には、私が住む福井にも新幹線が開通する。そうなると、県外の人や外国の人も大勢訪れることが予想される。初めての場所だとわからないことも多く、困ることもあるだろう。もし、いつかそういう場面に出くわしたら、私もおばさんのようにさっと対応できたらいいなと思う。

そして、さりげなくこの言葉を使ってみたい。

「良い一日を」。